

学校関係者評価（平成 28 年度）

三郷幼稚園 学校関係者評価委員会

1. 全体まとめ

- ・年度末に新園舎の引き渡し、移動が予定されていたことから、移転までの春休み中の預かり保育保育サービスの提供、継続が懸念されていたところではあったが、移動準備を進めながら保育サービス、その内容を低下させることなく移転につなげることができたことは評価に値する。
- ・仮設園舎での事業、保育運営ではあったが、臨機応変に対応しながら、園児ものびのびと活動することができた。また、保護者ニーズにも応えながら、順調に学園運営を進めることができた。
- ・その他、特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

2. 項目別評価

評価項目	取組み状況
支援教育・カウンセリング事業のさらなる充実	・昨年度からは市の保健センターとの連携も強化され、情報の共有、発達検査の実施により、きめの細かな保育、支援教育を実践することが可能となった。今後は、保護者との連携を図り、共通理解を得た中で、より一層個々の発達に適った質の高い保育、支援ができるよう努められたい。また、認定こども園制度下においては、特別支援の申請先や補助内容が1号、2号とそれぞれの区分により異なってくることから、制度の違いによる支援の違いや弊害が園児、保護者に及ばぬよう留意されたい。
保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。	・年度途中での移転もあり、保育の質の担保が心配されたが、丁寧かつ迅速に対応することにより、保護者理解を得ることができた。（事例としては、旧園舎⇄仮設園舎間におけるスクールバスの送迎サービス・定期的な状況報告など）
情報発信・情報提供	・新制度への移行に伴いある程度の混乱も予想されていたが、ホームページや手紙（紙媒体）での情報発信を事前におこなっていたことから、スムーズに移行、移転につなげられることができた。
安全管理	・仮設園舎に移転したことから、安全点検（通園路の安全点検を含む）の見直しやマニュアルの再構築を行い、教職員の安全対応能力の向上に努められていた。また、防犯カメラの設置といったハード整備も積極的に行われ、安心して保育活動を行うことができた。

3. 今後の課題について

- ・認定こども園への移行ならびに新園舎でのスタートとなることから、1日も早く園児、保護者が新しい環境になれ、安心して日々過ごせるよう努められたい。
- また、乳児の0歳児から幼児の5歳児まで、一貫した保育、教育が行えること（連続性）をメリットとして、保育・教育内容の充実を図りながら地域の待機児童の解消についても一助となれるよう努められたい。